

知って欲しい。UNISON のこと、頑張る学生たちのこと。

みなさんこんにちは。UNISON 代表の中村友哉です。そろそろ UNISON という名前も定着してきたころではないかと思っています。「え、知らない」と思った人、大丈夫。この場を借りて説明しますから。

UNISEC では昨年から、理事会に学生が参加することになりました。そして、初代の理事として僕と、東工大の宇井さんが選ばれたんです。UNISEC の主役は学生なので、やはり学生が主体的に活動できる仕組みを作っていかなければならない、これが僕と宇井さんの共通認識でした。そこで作ったのが UNISON。UNISON っていうのは、UNISEC Student Organization の略なんです。「ユニゾン」って読んでください。UNISON を辞書で引くと「調和、一致」とあります。学生が一致団結し、大きな目標に向かって協力していく、というコンセプトによく合うと思いませんか？実は、僕がサークルで合唱をやっていたという裏話もあるんですが…。

UNISON としてこれまでに行ったこととしては、学生の意識調査（アンケート）と板倉コンペの準備・司会でした。板倉コンペは天候に恵まれず残念な結果になってしまいましたが、これらの活動を通して、今後の方針がだんだん見えてきました。学生のみなさん、UNISON って、僕と宇井さんがやっていると思いませんか？もちろん僕たちは UNISON の代表ですけど、UNISEC 加盟大学の学生全員が UNISON メンバーなんです。そういった、「学生が主役なんだ」という意識をもっと高めていく必要がある、と思ったわけです。

昨年末の UNISEC-WS では、UNISON が中心となって学生だけで議論する機会が設けられました。これが UNISON の活動を活性化させるまたとないチャンスだと思い、ひとつの提案をしました。それが「CanSat のキット化」です。



UNISON 代表
東京大学中須賀研究室
中村 友哉



これは、学生が協力して行うプロジェクトであるという点（しかも技術レベル的にとっつきやすい）、広く一般や高校生などの教育に利用でき、アウトリーチ活動としても意義があるという点で、これからの活動として最適だと考えたからです。北海道での熱い議論の中で様々な意見が出ましたが、手始めに昨年 CanSat を製作した大学で新入生などに作ってもらい、という方向で一致しました。これは、数年以内に実現できるように各方面でがんばってもらっています。毎年、一般の方が製作した機体を打ち上げるイベントを開催することも考えており、軌道に乗れば（!）面白い企画に発展するのでは、と期待しています。

UNISON のとりあえずの最終目標は UNISEC ロケット・UNISEC 衛星を実現することです（初耳？）。これと同時にアウトリーチや技術の向上を図り、同じ志を持つ学生を中心とした団体とも積極的に交流を行いながら活動を続けていきます。

そんな壮大な夢を持つ UNISON ですが、まだ生まれたての赤ちゃん坊で、これからどうやって育てていくかは私たち学生次第です（僕と宇井さんだけじゃないですよ）。同じ目標を持って集まった仲間だから、さまざまな知恵を出し合って、一緒に力を合わせて、学生にしかできないことをやり遂げたい。ここから日本の宇宙開発を盛り上げていきましょう！

UNISON へのご意見・ご提案を大募集！
中村（yuya@space.t.u-tokyo.ac.jp）
または宇井（martini@ss.mes.titech.ac.jp）までお気軽に。

あなたも UNISEC に参加しませんか？

UNISEC では新会員を募集しています。
実際に学生と活動していただける方、時間はないけどエールを送りたい方など参加の形は問いません。
<http://www.unisec.jp> で参加をお待ちしてます。

UNISEC NEWSLETTER

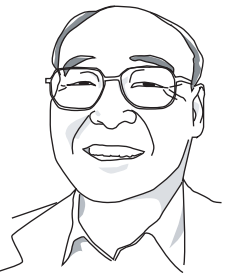
JANUARY 2004 FIRST EDITION

○ 新年理事長あいさつ

「2 年目のジンクス」

八坂 哲雄

大学宇宙工学コンソーシアム理事長
九州大学工学部教授



2003 年の初めに UNISEC は新たに NP0 として再出発をしました。今までの 1 年間に多数の会員の登録をいただき、また、多方面のご支援をいただいたことを感謝いたします。この間にあった CubeSat の打ち上げをはじめとしたユニークな成果は UNISEC を支えていただく多くの方と、それに応える各大学の皆さんの努力の賜物です。

さて、世の中には 2 年目のジンクスなるものがあります。われわれは、若い人たちの活躍の場を提供するもので、それゆえ、古くからの伝承になるジンクスとは無縁でありたいと思います。しかしながら、順調に走り出したことであるほど、幾多の壁に早くから苦勞するものです。われわれにもそれはあります。技術的な面では、たとえば、周波数問題、ロケット打ち上げ試験場の安全課題、打ち上げ機会の獲得など、すぐには解決できないことがたくさんあります。運用面では、資金調達・運用資金の不安定さなどが実は存在します。でも、明るく考えましょう。UNISEC への社会の目は温かいことは明らかです。

学生諸君の熱意と情熱、そして、それらに支えられた具体的な活動は、ワークショップの場などに出席した人には直接の衝撃と感動を与えています。日本の若者の半数以上が宇宙に大きな興味を示します。しかし、実際に宇宙活動の輪に入る人はそのうちの 1% のはるかに下のオーダーでしかありません。もし、宇宙に興味を持つ人すべてに何らかのチャンスが与えられたと仮定しましょう。「理科離れ」などという言葉は存在しなくなるでしょう。おそらく、世の中の経済不況や産業の空洞化なども自然解消するに違いありません。なぜなら、このような若者の探究心が満たされ、みんなが探求の方策とその喜びを学ぶ取ることは、必然的に社会を活性化するからです。必ずしも最終的に宇宙開発に従事するか否かは問いません。いったん科学に対する興味と喜びを経験すれば、それはその人のそれからの将来を強く支配するからです。UNISEC は宇宙活動に実際に手を染める学生の数を少なくとも 10 倍は増やしたといえるでしょう。でも、満足してはいけません。そもそも、最初的人数が数十の桁でしかなかったからです。今年の新成人が何人であったかは知りませんが、それに比べれば無視できる数でしかないことは明らかです。逆に言えば、UNISEC は殆ど無限の成長の余地を持っていること、もっとたくさんの学生諸君とわれわれの経験をシェアする任務を持っていることになります。

国レベルでの宇宙活動は、さまざまな変革と深刻な問題に直面していることは良く知られています。特に、ロケットや人工衛星の不具合は関連機関に心労を与えています。私は、これらの問題に対して、「失敗の経験が少なすぎることを指摘したいと思います。これは、直接の技術者に対しては勿論、宇宙活動を眺める社会の目に対しても同じです。チャレンジとは失敗を克服することにほかなりません。失敗を糧とする度合い、失敗のマイナス影響を小さくする度合いは、早くそれを経験するほど大きいといえます。UNISEC はそのような場を提供していると思っています。

思い切って挑戦してみましょう！！

UNISEC Newsletter vol.1-1

発行：UNISEC 事務局
発行日：2004 年 1 月 29 日
編集：吉田 聡子

連絡先：〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学工学系研究科航空宇宙工学専攻内
<http://www.unisec.jp> Email: info@unisec.jp